

「はい、フジタ商事でございます」

「もしもし、スズキ製作所の原田と申します。いつもお世話になっております。恐れ入りますが、総務部長の佐藤さんはいらつしやいますか？」

「申し訳ありません。佐藤はただ今、会議で席を外しております。三時頃には終わる予定となっておりますが」

「それでは、三時頃もう一度こちらからお電話いたします。佐藤さんがお戻りになられましたら、来週水曜日の打ち合わせの件で電話があつたとお伝え願えますか？」

「失礼ですが、お名前をもう一度お願いいたします」

「スズキ製作所の原田と申します」

「スズキ製作所の原田さんですね。私、清水と申します。佐藤が戻りましたらスズキ製作所の原田さんから、来週水曜日の打ち合わせの件でお電話があつたと申し伝えます」

「よろしく願います。失礼します」

清水は電話を切ると、明日の正午迄に提出しなければならないシステム改革案の作成に取りかかった。しばらくすると、再び総務部の電話が鳴った。今度は向いの席に座っていた本間静香が急いで受話器を取った。

「はい、フジタ商事でございます・・あ、こちらこそお世話になっております。はい、少々お待ちください」

本間は電話を保留にすると、清水に取り次いだ。

「清水さん、スズキ製作所の原田さんという方から三番にお電話です」

「お電話代わりました。清水です」

「もしもし、先程お電話いたしましたスズキ製作所の原田と申します。お忙しいところ度々申し訳ありません。先程の電話で、三時頃に佐藤部長に電話をおかけすると申し上げましたが、急な仕事が入りまして、これから広島へ行くことになったんです。戻りは早くても明日の夕方になる予定ですので、誠に申し訳ありませんが、広島から戻り次第こちらから改めてお電話させていただきます。佐藤部長によるしとお伝えください」

「わかりました。申し伝えます」

「よろしく願います。失礼します」

三時になると会議が終わり、席を外していた佐藤が席に戻った。

「部長、お疲れ様でした」

「ああ、ご苦労様。私に何か連絡は？」

「はい、一件ありました。スズキ製作所の原田さんから来週水曜日の打ち合わせの件で電話がありました。本日これから緊急で広島へ行くことになったので、戻り次第連絡することでした。部長によるしとお伝えくださいと言われました」

「そうか。ありがとう」

清水は伝達を終えて一息つくくと、後片づけをするために会議室へ向かった。